

平成二十六年度における事業並びに財務状況・自己評価・学校評価書を情報公開します。

平成二十七年五月二十五日

(学) 藤田学園 藤田幼稚園

理事長・園長 藤田道信

事業報告書

平成26年度



設置者	学 校	法 人	藤 田	学 園	
幼稚園名	藤 田			幼 稚 園	
理事長・園長 藤 田 道 信					
所在地	静岡県富士市大淵2964番地の1				
定員数	300名	認可クラス数	年少	年中	年長
			3	3	3
		学年定員数	90名	105名	105名

理事長挨拶

本学の使命は、建学の精神に基づき運営され、幼児教育を通じ人間社会の幸福をつなげ・ひろげていく架け橋となるよう、研鑽努力することであります。

教育内容の充実発展・施設設備の整備充実・保護者の教育費の負担軽減・家庭教育の充実を運営の柱とし計画運営を目指しています。その為には、学園を取り巻く社会環境や内部環境を分析した経営を行わなければなりません。本学の発展は本質を見失わず、着実に歩みを進めたいと願っています。

法人の役員・教職員、そして保護者の皆様とともに、子どもたちの幸福と健やかな成長を願い挨拶とします。

建学の精神

人間の一生の中で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響をおよぼす幼児期の教育は何事においても大切な時期である。家庭教育、社会教育の与えるものは、幼児の生涯を左右するといっても過言ではない。集団生活の中で、幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ねさせ日常の基本的な生活習慣と社会性を養い、心身ともに健全なる発達を助長することが教育の場であり、使命である。その責任は無限であり、やがて次代を担う若者としてたくましい人間育成の理念と信念をもって、日々自ら研鑽に努め教育道をもって地域社会の先覚に努めることにある。

法人の概要

(1) 学校法人

学校法人名	藤 田 学 園
学校法人認可年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
学校法人登記年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
設置する園名	設 置 認 可 年 月 日
幼稚園	藤田幼稚園

(2) 役員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
園 長	1 人	1 人	4 年
評議員	2 人	2 人	4 年
学識経験者	3 人	3 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
理事計	6 人	6 人	年
監事	2 人	2 人	4 年

(3) 評議員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
教職員	3 人	3 人	
卒業生	5 人	5 人	4 年
父母	人	人	年
学識経験者	5 人	5 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
評議員計	13 人	13 人	4 年

幼稚園の概要

教育目標・方針	【富士山のように】 1. じょうぶでねばりづよい子 1. ゆたかなこころの子 1. どりよくしてつくりだしていく子 1. すすんでとりくめる子 こどもを第1に 個の尊重と集団生活の調和 時代認識と将来性 子どもの健やかな成長を教師、保護者、地域社会が連携協力し支えます。 思いやり感謝の気持ちを大切にします。公共性を重んじみんなでルールマナーを進んで守ります。普遍である本質を守り時代の変化を認識します。
特徴	いきいきと幼児が生活できる環境を常に思考し実践をしていく。

事業内容	教育事業の推進	園児ひとり一人の成長発達の課題を踏まえ教育内容を構成し実践するよう努力した。集団生活の中で様々な体験を積み生きる力の源泉を育む教育活動に努めた。家庭に対して、子育て支援の充実とともに家庭教育の重要性を伝えるよう努力した。幼児期に大切な育ちについて保護者そして地域社会へ訴え事業を実践した。富士地区林業研究会ひだまりの森を十分に活用し、園児の健やかな成長・家庭の絆を育む活動ができた。ホームページのリニューアルを実施した。満三歳児を初めて施行したが、問題なく運営できたが、課題は今後の継続と展開である。	
	決算の状況	①無駄な支出を避け、留保金の確保を念頭に施設設備の整備・修繕を進めた。(舞台の購入) ②園児の教育活動にかかわる事業経費を重視した運営を行った。 ②ひだまりの森の整備においては長期的な視点で経費を投入した。 ③健康・衛生面など危機管理上の必要経費を消費した。 ④園児の福利厚生について予算執行した。	
具体項目		内 容	
1	教育事業	教員の資質向上 個に即した教育	幼児の育ちについて実践を通じ互いに高めあう。また園内研修会を進めた。積極的に研修会に参加し資質向上に努めた。 園児一人ひとりの心の育ちを根底に、身体能力、思考力、感性を育むよう、実践し、また、支援を必要とする園児には専門家と協力し、保護者との共通理解を深め適切な指導支援を進めた。
2	研究事業	研究活動 自己点検評価	園全体の教育テーマを決め、そのテーマから広がる創造していく総合教育を展開し、思い出展覧会に表現した。 教師自らが、自己点検・評価をし自己研鑽に励み、学校評価や保護者アンケートからより良い教育運営が図られるよう自己の資質向上と園運営の充実を図るよう努力した。
3	地域連携事業	積極的な参加 幼少連携	地域コミュニティの主催する行事、防犯防災などの事業、地域教育機関との連携した。文化祭・消防祭りなどに参加した。淵っ子クラブなど教員が地域に貢献をした。幼年消防クラブは県知事褒賞を受賞した。 小学校との情報交換の充実。子ども達の交流など機会を使って園児と児童、教員間の交流を図った。また進級児の教育的情報交換を図り、スムーズな進学ができるよう努めた。
4	施設設備	教育研究機器備品整備 その他	園児の教育活動を充実と広報する為の設備整備をした。舞台を購入し、音楽会の運営をスムーズ化と会場設営の基盤を整備した。 園庭芝生化を進める方向で検討を進めたきた。また遊戯室の屋根の補修の見積もりを進めている。
5	管理運営	事務・園務運営 労務環境	事務内容の分担性により、事務の効率化と確実性を図り情報公開を実施した。ホームページや掲示板使用。 女性の働く場であり、家庭をもちながらの労働環境を整備し、教育の充実・子育て支援の充実に繋がる相乗効果を図った。また、現在い、育児休業をしている女子職員がある。
6	財務関係	留保金の確保 思慮深い積極性	無駄な経費を削減するよう努めるが、園児数減で収入減と教員の処遇に課題がある。しかし、教育内容の充実と、園児の福利厚生経費は確保した。予算の厳しい中、減価償却額は確保していくよう努力した。 教育環境や内容の充実を図り選ばれる幼稚園を目指し、思慮深く財政運営につとめるた。子ども子育て支援新制度の動向で今後幼稚園の経営について、子どもの最善の利益と保護者ニーズを注視し考察してきた。今後大きな課題である。

平成26年度 学校法人藤田学園 藤田幼稚園 情報公開

1.財務状況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	43,472,670
寄付金収入	76,000
補助金収入	37,895,000
資産運用収入	269,485
資産売却収入	0
事業収入	15,534,221
雑収入	547,714
借入金等収入	0
前受金収入	1,710,000
その他の収入	245,387
内部資金収入	0
資金収入調整勘定	△ 1,920,000
前年度繰越支払資金	31,030,376
収入の部 合 計	128,860,853

支出の部	
人件費支出	65,645,470
経費支出	29,959,207
借入金等利息支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	498,000
資産運用支出	5,582,270
その他の支出	1,286,109
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	△ 387,600
次年度繰越支払資金	26,277,397
支出の部 合 計	128,860,853

【財産目録】

科 目	金 額
基本財産計	266,390,299
運用財産計	31,275,763
資産の部 合 計	297,666,062
固定負債計	3,591,000
流動負債計	3,539,306
負債の部 合 計	7,130,306
差引純資産	290,535,756

【消費収支計算書】

科 目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金	43,472,670
寄付金	76,000
補助金	37,895,000
資産運用収入	269,485
事業収入	15,534,221
雑収入	547,714
帰属 収入 合計	97,795,090
基本金組入額合計	△ 498,000
消費収入の部合計	97,297,090
支出の部	
人件費	65,645,470
経費	36,429,439
借入金等利息	0
資産処分差額	0
徴収不能額	0
本部負担金	0
消費支出の部合計	102,074,909
当年度消費支出超過額	△ 4,777,819
前年度繰越消費収入超過額	△ 20,553,718
翌年度繰越消費支出超過額	△ 25,331,537

【貸借対照表】

科目	本年度末
資産の部	
固定資産	266,000,337
流動資産	26,277,397
資産の部合計	292,277,734
負債の部	
固定負債	2,835,000
流動負債	3,186,797
負債の部合計	6,021,797
基本金の部	
第1号 基本金	303,873,802
第4号 基本金	7,713,672
基本金の部合計	311,587,474
消費収支差額の部	
当年度消費支出差額	△ 4,777,819
前年度までの繰越消費収支差額	△ 20,553,718
消費収支差額の部合計	△ 25,331,537
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	292,277,734

園のコメント

26年度帰属収支差額の比率がマイナスとなる。少子化による入園者の減による、収入減に伴う中ではあるが、教育の資質向上のための人材確保と教育経費の充実を図り園運営に努力をしなければならない。納付金にみる人件費は拡大しているが、本学の納付金は市内の私立幼稚園においてももっとも低い事もあるが、それは、創始者の経営理念である保護者負担軽減と、よりよい教育を目指す志をもって学園運営を進め、有能な人材と教育環境の向上をもって社会に貢献する事を使命としている。人材でいえば現在はここ数年昇給もなく身を投じて熱心に教育に打ち込んでくれる教職員に感謝している。また、ひだまりの森など教育環境の充実を図り、園児や地域に還元する目的から教育活動に直接かかわる経費を充実させている。その他の経費については、きめ細やかに節約節減に取り組んでいくよう努力している。今後も園児数の確保や施設老朽化もしっかりと視野にいれ収支のバランスをどのように安定させていくか計画経営に傾注していくことを経営の重要点としていく。

平成 26 年度 学校関係者評価書及び自己評価総評

(改善方策及び結果公表シート) 平成 27 年 3 月 2 日 まとめ

1 幼稚園の教育目標

人間の一生で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響を及ぼす幼児教育は何事においても大切な時期である。集団生活の中で幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ね「富士山のように」1.じょうぶでねばりつよい子 2.ゆたかなこころの子 3.どりよくしてつくりだしていく子 4.すすんでとりくめる子を目指し、やがて次代を担う、たくましい人間、豊かな心をもって大きくはばたく人間育成を目標とする。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 幼児ひとりの成長と発達を促すための適切な環境設定をし教育実践がされているか。
- 教師は常に自己研鑽に努めているか。
- 保護者と子どもの育ちを通じ、その喜びや目標を共有しているか。
- 園児達が地域の中で認められ守られる活動を推進しているか。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由	関係者評価
① 保育の計画性	B	園務は分掌化され、行事運営はプロジェクトを中心に企画運営され日常の教育計画は月案週日案を作成している。計画を作成する時には対象者を意識してきた。	B
②保育のあり方 幼児への対応	B	幼児の発達課題を的確にとらえ、その子なりの支援・指導をするよう努め教育効果向上を図った。活動を目的とせずその過程を重視し、子どもの内面の育ちに力点において保育の在り方を十分に留意してきた。	B
③教師として資質 能力、適正等	B	研修会参加は保育中の参加は困難ではあった。よって毎日が研鑽と自覚するため日々の保育の反省、総務部により指導を行った。長期休暇また休日を使つての研修に参加した。	B
④保護者への対応	B	保護者からの苦情は無いが、日々の子どもの様子を伝えられない事が多い。また教員の対応で個人差があり、相談等内容によって対応できる教員を当てるようにした。担任は特に結果を焦らず教員相互で共有した。	B
⑤地域の自然や社会との関わり	B	幼稚園の資源である、人材・施設を地域に提供し貢献を図っている。ひだまりの森を富士林業研究会の協力を得ながら活動をひろげたり、まちづくり協議会に笹場(富士山名勝)事業対応や芸術村へ貸出している。その他、幼年消防クラブは県知事褒賞を受賞した。	A

⑥研修と研究	B	園内研修の時間の確保が難しい。子育て支援や幼稚園が担う事が増大している。教員の就業時間にその研修研究の時間の確保が課題である。例年の課題である。しかし必要不可欠な研修には休日も参加している。	B
外部アンケート 経営評価		外部アンケートは2月音楽会で回収よってその後集計。同じく、経営的評価も最終補正等から3月の役員会で報告する。	

結果・評価 A 十分達成されている B 達成されている
 C 取り組まれているが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園目標である「子どもの瞳が輝くとき～キラキラファミリー」をテーマとし教育計画を進め保育実践をした。また思い出展覧会にはその実践結果を展示し、子ども達の育ちにつながっている事を保護者及び地域に発信した。また大淵地区行事に積極的にかかわり、地域の中で園児達を見守り育てていけるよう、幼児教育の重要性を伝えながら地域貢献を進めた。

幼稚園教育を実践するにあたり、教職員研鑽・保護者理解・地域貢献・時代ニーズは大きな要因であるが、その中で、子ども子育て新制度は27年4月から施行され、当市の私立幼稚園でも3分の1が移行を表明しているので不安はあるが、幼児教育として不変であるものを大切にしながら、地域ニーズを研究していく事が直近であり今後の重要課題である。岩手県大槌町みどり幼稚園さんとこれからも交流していく

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
子ども子育て新制度の対応	富士市における新制度について、地域性を踏まえ十分に研究検討し移行の有無も踏まえ長期計画を企てる。
教職員の資質向上	研修に保護者対応・子どもを見る目について研鑽する。研究保育も実施する。チーム保育により教員同士の信頼をもとに互いに高め合うようにする。
ひだまりの森の教育活動の充実と地域貢献	環境教育の実践の場として大いに活用する。また地域社会とのつながりの強化を図り『ひだまりの森』での実践を考えていく。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・施設面で修繕が必要な箇所があり来年度は予算化するべき（遊戯室屋根）
- ・教具が古いものは、時代に合わせて更新したり、現在に適合するようそろえてほしい。
- ・先生方は子どもを第一主義で見守ってくれる。また、保護者への対応を丁寧にすることがより大切、特に個々の価値観が多様化している現在、重要な課題になっていると思う。しかし多くの方が園の対応が他園に比べて上々である評判をいくのでうれしい。
- ・ひだまりの森は幼稚園を支える大きな効果を秘めている。子ども達が自然の中で学ぶ事は大切である。また、地域の中で多くの方から期待する言葉を聞く。地域貢献としても富士山の撮影や芸術村との連携も今後も貢献していくといいと思う。
- ・園児の人数が少なくなっている。原因を調査し、その対応を図らなければならないと思う。